

NDMHS 校舎建設とその背景

NDMHS の校舎は着工から約1年かけ、完成に近づいております。しかし、NDMHS の校舎建設は、ここまで決して順風満帆というわけではありませんでした。そのプロセスの一部をご紹介します。

まず、建設地の選定で大きな出来事がありました。

2012年11月当初、既に選定済みだった土地での工事着工間近に、地元勢力から圧力がかかり、建設が困難になった事がありました。住民や政府は応援してくれていたのですが、利害関係の生じる地元の一部の人たちが本校の参入に反対し、撤退を要求してきたのです。想定範囲外からの圧力に、着工開始が遅れる事は必至でした。

結果的にスピーディに代替案を策定できたのは不幸中の幸いでしたが、地域の勢力関係は日本よりもシビアに考えなければならぬと痛感した出来事でした。

現地パートナーとの、「当然」の感覚の共有も重要なプロセスでした。

日本とは違う文化や価値観の中で、仕事に対する認識を相互理解するには時間がかかります。例えば校舎の設計・工事費用見積もりなど交渉の場面では、金銭見積りが大雑把であったり、打ち合わせ無しに設計が変わったり、工事の随所が雑である状況を見て取ることが出来たり・・・。現地業者も一生懸命取り組んでくれていますが、子どもたちのために、現地とこちらの「当然」を擦り合わせて仕事をする必要がありました。

その他にも、雨季(毎年6月～10月)や2014年1月に行われた国民総選挙における政党間抗争の影響などで、工期が大幅に遅れることもありました。

小事は多々ありましたが、助けてくれた現地パートナーのBDP、そして建設業者にはいくら感謝をしてもすぎる事はありません。完成を間近に控え、NDMHS校舎は、本当にクオリティの高い物に仕上がってきている実感があります。

校舎完成は、今では私たちだけでなくBDPや建設会社や地域の方々の夢でもあります。

8月に行われる校舎完成式典の様子は9月号にてお伝えしたいと思います。



校舎正面



校舎内



教室



図書室

定期考査期の様子と、バングラデシュの試験時の現状

NDMHS は 2 学期制で運営しているため、定期考査は年に 2 回(6 月、12 月)です。定期考査直前は先生方もより一層授業に熱を入れます。放課後も残って勉強する生徒もいます。学校中、考査前の雰囲気が出来てきました。

バングラデシュでは、小～大学卒業時の学力試験結果が大人になっても残ります。就職の際に提示を求められることが多いです。そういう風潮もあってか、筆者の感覚では、定期考査への意識は日本よりもシビアなイメージがあります。病気でも来るのは当たり前です。定期考査の成功をお祈りする、という文化もあるようです。



授業の様子



放課後の質問

一方で、バングラデシュの定期考査では信じられない事も起きています。

結果が重んじられるばかりに、国の各所でテスト中のカンニングが横行しているそうです。ひどい場合、親が試験会場で生徒の横で答えを教える、会場の試験官が黒板に正解を書き、生徒に写させるという事も起きているそうです。

そのような背景には、ただ合格させたいという以外に根深い思惑が存在していると筆者は考えます。子どもたちの幸せを考えれば、考査が形骸化することや、賄賂に利用されることはあってはなりません。厳正なる評価こそ、生徒の幸せに他なりません。

NDMHS では、愛を持って厳しく考査制度を整え、生徒の健闘を祈ります。
